

水稻・麦・大豆栽培情報 8 月号

J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【水稻】

1 病害虫防除

トビイロウンカは、7月4日、7月13日頃を中心に飛来しています。(7月18日付福岡県病害虫防除所情報)

トビイロウンカ(秋ウンカ)は初期の密度が低い場合でも、気象条件等により急激に増殖しますので、確実に防除を行ってください。

品種名	薬剤名	防除時期	対象病害虫名
夢つくし	ブラシンバリダ ジョーカー粉剤 DL	8月15～20日	いもち病 紋枯病 ウンカ類 他
元気つくし ヒノヒカリ	ビームアプロードスター クル粉剤 5DL	8月18～22日	ウンカ類 いもち病 他
ヒヨクモチ	アプロードバツサ粉剤 DL	8月20～25日	ウンカ類 他

※ 施用量は3剤とも4kg/10a

※ウンカ類への防除効果を高めるため、湛水状態で散布して下さい。

2 施肥

穂肥時期と施用量は、以下のとおりです。適正籾数確保と充実向上のため、適切な穂肥を行いましょう。

品種	穂肥①時期	穂肥①	穂肥②	出穂期(予想)
		(kg/10a 当り)		
元気つくし	8月4日頃	15	10	8月22日頃
ヒノヒカリ	8月10日頃	15	—	8月28日頃
ヒヨクモチ	8月18日頃	25	20	9月7日頃

※ 穂肥①の時期は、「元気つくし」は6/20移植、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」は6/24移植の場合の目安です。

※ 「元気つくし」と「ヒノヒカリ」はNK7号またはB・B606号、「ヒヨクモチ」はスーパーユーキくん3号の場合の施用量です。

※ 「元気つくし」でワシヨットエムコート 206 を使用する場合は穂肥①の時期に15kg/10a 施用します。

※ 穂肥②は1回目の1週間後に施用します。

※ 葉色が濃い場合は施肥時期を遅らせるか、施肥量を減らします。

【大豆】

1 病害虫防除（ハスモンヨトウ）

若齢幼虫が群生する白変葉を早めに除去し、被害の拡大を防ぐよう注意を払ってください。また、すでに幼虫が分散している場合は、下記薬剤より選択して、補正防除を行って下さい。

薬剤	希釈倍率	備考
ノーモルト乳剤 又は アタブロン乳剤	2000倍 (水100L)	幼虫は、白変葉を中心に分散しているため、被害株だけでなく、周りの株にも十分に散布する

※ ノーモルト乳剤、アタブロン乳剤の使用回数はいずれも2回以内となっています。

2 中耕・培土

生育促進や排水性の向上、倒伏防止などに有効な作業です。大豆の本葉2～3葉期以降5～6葉期までに1～2回株元に土が寄るように実施してください。

3 雑草防除

少量の雑草の場合は、中耕・培土により雑草の生育を抑制しますが、雑草が多発する場合は、除草剤を散布します。

薬剤	雑草種	使用時期	使用量
ポルトフロアブル	イネ科雑草	イネ科雑草 3～10葉期 収穫30日前まで	200～300ml (希釈水量100ℓ)
大豆バクラン液剤 (大豆2葉期 ～開花前まで)	広葉雑草	広葉雑草 生育初期～6葉期 収穫45日前まで	100～150ml (希釈水量100ℓ)

4 追肥

大豆が生育不良の場合は、開花期までに追肥を行います。

NK7号 10kg/10a

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベルを確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！